

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：高等学校費 目：高等学校総務費

事業名 高等学校部活動指導員・部活動アシスタント設置費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会高校教育課
県立学校教員人事係

電話番号：058-272-1111(内8667)
E-mail : c17786@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 165,916 千円 (前年度予算額： 165,976 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	165,976	0	0	0	0	0	0	0
要求額	165,916	0	0	0	0	0	0	0
決定額								

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

教職員の長時間勤務の主な要因となっている部活動に関しては、2018年度に適切な活動時間例や休養日等を定めた「高等学校部活動ガイドライン」を策定し、部活動の運営適正化に取り組んでいる。

また、多数の教職員が部活動顧問としての役割を担っている現状を踏まえ、部活動の技術面での指導や顧問の補佐的業務を担う、部活動アシスタントを高等学校に配置するなど、外部人材を活用した教員業務の負担軽減措置を講じている。

令和元年度は、更なる負担軽減措置として、単独での部活動の引率や指導を行う、部活動指導員をモデル校15校（高等学校）に配置し、令和2年度からは、部活動指導員を全県立高等学校に拡充して配置し、その効果検証を行ってきた。

その結果、部活動指導従事による時間外は全校配置前と比較して、年間平均約4時間の減という成果となっている。

(2) 事業内容

県立高等学校に、部活動指導員126名（63校×2人=126人）、部活動アシスタント189名（63校×3人=189人）を各校に配置する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県10/10

(4) 類似事業の有無

「運動部指導者派遣・研修事業」

100名の社会人指導者を、高等学校（特別支援学校高等部を含む）へ年間24回継続で派遣するとともに、派遣する指導者に対し、研修会を実施する。

（教育委員会事務局体育健康課所管事業）

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細	
報酬	151,038	部活動指導員 報酬 地域手当 部活動アシスタント 報酬 地域手当	71,619千円 1,290千円 76,740千円 1,389千円
職員手当	860	部活動指導員 期末手当 勤勉手当 部活動アシスタント 期末手当 勤勉手当	241千円 202千円 259千円 158千円
共済費	502	部活動指導員 部活動アシスタント	244千円 258千円
旅費	13,516	部活動指導員 部活動アシスタント	7,277千円 6,239千円
合計	165,916		

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・第4次岐阜県教育ビジョン「基本方針4 『学びの多様なニーズに応える環境』の充実目標27 長時間勤務・多忙化解消など、教職員の働き方改革の推進」
- ・教職員の働き方改革プラン2025

(2) 事業主体及びその妥当性

対象が県立高等学校

事 業 評 価 調 書 (県単独補助金除く)

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・効果的な部活動指導員と部活動アシスタントの配置を行うことで、時間外勤務が月80時間を超える勤務の根絶を目指す。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H30)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
時間外勤務時間 の月80名超過者 の延べ数	7,589	1,642	1,000	500	0	

○指標を設定することができない場合の理由

（記入欄）

(これまでの取組内容と成果)

令和5年度	<p>○取組 部活動指導員の配置：46校、114名 部活動アシスタントの配置：63校、330名</p> <p>○成果 部活動顧問、部活動指導員の各々の業務のあり方と、役割分担の明確化 教員の部活動に係る業務の負担軽減</p>
令和6年度	<p>○取組 部活動指導員の配置：46校、130名 部活動アシスタントの配置：62校、347名</p> <p>○成果 部活動顧問、部活動指導員の各々の業務のあり方と、役割分担の明確化 教員の部活動に係る業務の負担軽減</p>
令和7年度	<p>○取組 部活動指導員の配置：51校、154名 部活動アシスタントの配置：62校、341名</p> <p>○成果 部活動顧問、部活動指導員の各々の業務のあり方と、役割分担の明確化 教員の部活動に係る業務の負担軽減</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 2	部活動指導員の配置により、教員が必ず一人は部活動についていなければならぬ制約がなくなるため、本来担うべき業務に専念できる環境を整備する上で効果があり、「教員の働き方改革プラン2025」の着実な実行を図る上で必要性が高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

今年度とりまとめた成果と課題を整理し効果的な活用について、効果的な任用をしている学校から情報発信しリードしていく体制づくりを進める必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

主に部活動に起因する学校現場における多忙化解消を目的とし、「教員の働き方改革プラン2025」の着実な実行を図る。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	